

○青木さちえ 副委員長

それでは、増田裕一委員、質問項目をおっしゃってください。

◆増田裕一 委員

高齢者の住宅事情について、京王井の頭線浜田山駅について、硬式野球場について、教職員住宅について、キャリア教育について、時間があれば、ネットいじめについて、土曜日授業について、中学生駅伝について。使用する資料は、整理番号320、321です。

まず、高齢者の住宅事情についてお尋ねしてまいりたいと思います。

先日、区内で不動産業を営まれている方からお話を伺いました。高齢者の方が賃貸住宅を探してもなかなか入居できないんだよと、そういう趣旨のお話だったんですけども、考えてみますと、ご高齢の入居者の場合、不注意で火災を起こす可能性ですとか、また、病気によって長期入院して、荷物だけ部屋に置かれてしまうという可能性、また最悪の場合、孤独死してしまうという可能性等々、さまざまございまして、貸し主側としてもさまざまなリスクがあるというふうに認識をしております。

今後、杉並区におきましても、先般の調査にもよりますけれども、住民の高齢化が進展していく傾向にございますけれども、先ほどの事例にかんがみ、区としての対応状況をお尋ねいたします。

◎住宅課長

委員おっしゃられるとおり、高齢者につきましては、いろいろオーナーから入居を拒まれるというような事情に立たされております。区においては、高齢者、障害者、あとDV被害者などを対象にいたしまして民間のアパートをあっせんする事業、それと、立ち退きなどを求められて急遽住宅が必要な場合、区が借り上げているアパートを低廉な家賃で提供する事業、それと、連帯保証人が見つからない場合、区のほうで債務保証会社をあっせんして、連帯保証人をつけてアパートに入居できるようにする、そのような三つの事業を主に展開してございます。

◆増田裕一 委員

そうですね、課長のほうに別件でご相談した際も、応急一時居室という制度があるということでございます。その応急一時居室でございますけれども、現在、利用状況、直近で結構ですので、お示しいただければと思います。

◎住宅課長

先週の土日の火災の被災者の方も含めて、今87室のうち65室入居されております。

◆増田裕一 委員

これからだんだん高齢の方も増えてまいりますし、また、持ち家を売り払って賃貸住宅に移ろうといった場合も、なかなかお金を持っていても見つけれないという先ほどのようなケースもございますので、第一義的には区営住宅だとか都営住宅、公が住宅を整備するということもございますけれども、今民間で住宅のストックが余っておりますので、借り上げてやっていくという方向性も前向きに評価をしております。

区の今後の方向性として、先ほど87室持っているということだったんですけれども、方向性としてはいかがでしょうか。

◎住宅課長

応急一時居室については、古いアパートだと昭和48年ぐらいのからございまして、今後は居住環境をよくする、古くて余り使い勝手がよくないところについては取りやめて、更新する際には、立地条件だとか、いろいろな設備的によいものに更新していく、そのような形で取り組んでいきたいと考えております。

◆増田裕一 委員

貸し主側も、なかなか理解を得られるというのも少ないわけでございますので、ぜひともこういう取り組みを、もちろん利用者側にも周知していただければと思いますし、また、大体窓口になるのは不動産屋さんだと思いますので、そちらの窓口にも、大変いい制度だと思いますので、周知していただければと、そのように思います。

引き続きまして、浜田山駅につきましてお尋ねします。

浜田山駅につきましては、平成19年の決算特別委員会、昨年の予算特別委員会でも質問させていただきました。年々利用者が増えていって、出入り口が一つしかないということで大変込み合うということで、対応のほうをお伺いしたんですけれども、その後、進展はございましたでしょうか。

◎拠点整備担当課長

地権者と条件面でなかなか折り合いがつかなくて、土地の売買の交渉については中断しているような状態でございます。

◆増田裕一 委員

昨年、あわせて、ホームドア等、安全対策を京王電鉄のほうに要望すべきというようなご提案をさせていただきましたけれども、その後の対応状況はいかがでしょう。

◎拠点整備担当課長

京王のほうとホームドアの設置についてお話しはしていますが、京王としては、まず京王井の頭線の列車がまだ統一されていない、統一されていないとドアの位置がなかなか難しいと。ただ、ホームドアに対しても国の補助制度ができたということで、京王としても、今後、京王線のホームドアの設置のあり方について検討していきたいということを言うておりますので、区としてもその節には積極的に支援をしていきたいというふうに考えております。

◆増田裕一 委員

今般・A品川区でも来年度予算で、東京都からですけれども補助を受けて、大井町駅にホームドアを設置する際に助成を行っているということでございます。積極的にそういう安全対策にも区として関与していただければというふうに思います。

続きまして、教職員住宅についてお尋ねしたいと思います。

関連する平成23年度予算額及び積算根拠をお示してください。

◎庶務課長

教職員住宅の維持費でございまして、それぞれ、いわゆるメンテナンス、部屋をあけるときの補修等の経費を計上してございます。

◆増田裕一 委員

教職員住宅の目的とその概要をお示してください。

◎庶務課長

いわゆる教職員の福利厚生ということで、生活が困難な教職員が住むという目的で建設されたものでございます。

◆増田裕一 委員

こちらのほうなんですけれども、平成20年第1回定例会の予算特別委員会におきまして、教職員住宅の見直しを要望させていただきました。当時の庶務課長から、「時代環境というのが変わっておりますので、その辺も含めて考えたいと思いますけれども、一方で、職員の福利厚生という側面もございまして、その辺十分勘案して、行革課題というものの中で検討を進めてまいりたいと思います。」という答弁をいただきましたが、その後の検討状況はいかがでしょうか。

◎庶務課長

当時、空き室が目立っていたというふうな状況もございました。現在では、入居基準を見直しまして、満杯の状態ということでございます。

なお、使用料については、適時、3年に1回ですか、改定をしているところでございます。

◆増田裕一 委員

満杯かどうかということは当時問題にしてなかったわけですね。要は、公務員住宅、国家公務員のほうですけれども、見直す動きというものがございますし、また、近年の景気動向を受けて、民間企業のほうでも社宅を手放すという動きが、杉並区内でも結構社宅があったんですけれども、どんどん手放していつているというふうな動きもございます。

区政におきましては、財政難、建て替え2,700億円、すべての建物を建て替えるとそれだけかかるというような、そういったことも施設白書のほうで挙げられてお

りますので、福利厚生というのも十分にわかりますけれども、公務員住宅、今回は教職員住宅ではございますけれども、それにとどまらず、抜本的な見直しというものに着手していただくということを、改善を強く求めたいというふうに思います。

先ほどちょっと忘れておったんですが、硬式野球場についてお尋ねしたいと思います。

先日、ある野球クラブのコーチから、杉並区には硬式野球に対応した野球場がないというようなお話をお伺いいたしました。このお話は事実かどうか。

◎社会教育スポーツ課長

区立の体育施設といたしましては、硬式野球に対応する球場はございません。

◆増田裕一 委員

確かに、いただいた資料によりますと、東京都もしくは杉並区が管理している6つの野球場のうち、硬式野球に対応した野球場というものは一つもございません。

そもそも硬球用の野球場と軟球用の野球場の違いというのは何なんでしょうか。

◎社会教育スポーツ課長

一番大きな違いは、硬式の球に耐え得るバックネット、周辺のネットの強度の問題でございます。

◆増田裕一 委員

ネットだけですか。

◎社会教育スポーツ課長

あと、塁間の距離なども長くなりますので、野球場のスペースの面積としては大きくなります。

◆増田裕一 委員

そういった、一部区民の方からも声が上がりましたが、こうした硬式野球場を例えば整備するとかいう上で、どのような課題が杉並区としてあるのでしょうか。

◎社会教育スポーツ課長

現在も野球場に関しましては軟式野球が中心に使っております。その団体だけでかなり土日については満杯の状態でございますので、硬式のチームとなりますと、またその調整もかなり大変なことになるというふうに予想されます。

◆増田裕一 委員 いろいろ課題があるということだと思います。わかりました、そのように伝えたいと思います。

それでは、キャリア教育についてお尋ねしたいというふうに思います。

子どもの学ぶ意欲というものは、自らの将来の姿を描いて、その実現のために努力をすることから生まれるものだというふうに考えております。私も以前、塾講師

をしておりましたけれども、実際、自分の将来というものを、夢とかそういうものがある子どもの勉強に対する姿勢というものは大変強いものがあるというふうに思います。

杉並区におきましては、中学校の職場体験学習に先行的に取り組んだり、キャリア教育の手引を作成したりしながらキャリア教育の充実に取り組み、一定の成果を上げてきたものというふうに認識をしております。

そのような中、新しい学習指導要領、小学校では来年度、中学校では再来年度ということで変わるということで、キャリア教育を実施するための総合的な学習の時間が縮減されると伺っておりますが、今後どのようにキャリア教育を進めていくお考えなのか、お尋ねいたします。

◎済美教育センター統括指導主事

委員ご指摘のように、総合的な学習の時間、これまで、キャリア教育が横断的な内容ということでありまして、中心になって進めてきたものでございます。その時間数は削減しますが、キャリア教育は全教科・領域で行われるものでありまして、その意味は変わっておりません。今後もキャリア教育については充実に努めてまいりたいと思っております。

◆増田裕一 委員

かくいう私も、ある学校でゲストティーチャーとさせていただいたことがあるんですけども、そういったキャリア教育というのは現場でしていかなきゃいけないと思います。

中学校の職場体験学習等、一定程度教育課程の時間を必要とする取り組みにつきまして、実施することが困難になるのではないかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

◎済美教育センター統括指導主事

平成24年度に向けまして、各学校が授業数の確保につきましては非常に工夫しているところでございます。学校によりましては、夏季休業期間中に職場体験を設けてまして、そのあたりの課題を解決しながらやっているところでございます。

◆増田裕一 委員

各教科でキャリア教育を取り扱うということになりますと、それぞれの、例えば社会科ですとか道徳ですとか、そういった教科のねらいとキャリア教育のねらいというものが混在するということにもなりかねませんが、どちらも中途半端になってしまうのではないかなというような危惧を持ってしまおうんですが、その点、どのように解決していくおつもりなんでしょうか。

◎済美教育センター統括指導主事

キャリア教育ではぐくむ情報を活用する能力あるいは将来を設計する能力などは、学習指導要領の中にも組み込まれている内容だなというふうに理解しております。ただ、これを区別することなく一体化して進めていくためには、本区がつくっておりますキャリア教育プログラムの中の内容をさらに充実していったり、あるいはこの活用の仕方について各学校へ周知、広報していく必要があると考えております。

◆増田裕一 委員

では次に、ネットいじめに移りたいと思います。

一昨年第1回定例会におきまして、区としてネットいじめ対策に取り組むべきであるのご提案をさせていただきました。当時、学校支援本部やPTA組織・函二連携し、ネットパトロールの取り組みについても検討するのご答弁をいただきました。その後、一昨年の6月に、区立小中学校の生活指導主任の教員を対象に、民間の講師を招いて講習会が開かれました。その後の対応状況はいかがでしょうか。

◎済美教育センター統括指導主事

委員今お話しになったとおり、平成21年度の第2回生活指導主任会のほうで、民間の方をお呼びしまして、ネットいじめ等にかかわって研修をしたところです。その後、各学校のほうでセーフティー教室等に広がりを見せまして、各学校独自の取り組みに発展しているというふうに考えております。また、平成22年度もその取り組みをとどめることなく、新たにネットについてのものにつきましては、同じように生活指導主任会で取り上げてきたところでございます。

◆増田裕一 委員

当時、ネットいじめというのは、ネットの掲示板、匿名掲示板ですとかブログですとか、そういったいろいろな技術を使ってやるということで、専門性というものが非常に重要になるというような指摘をさせていただいたんですが、そこら辺はどのように反映されているのでしょうか。

◎済美教育センター統括指導主事

先ほどお話ししましたセーフティー教室は、警察等のご協力をいただいた例もございますが、より専門的な講師を招いて実施されているという実態がございます。また、同時期に東京都の教育委員会がネットにつきまして不適切な書き込みを監視するという事業が起りましたので、それにつきまして各学校が学びながら進めているところでございます。

◆増田裕一 委員

確認なんですけれども、基本的には生活指導主任の先生がネットパトロールをやっているという認識でよろしいのでしょうか。

◎済美教育センター統括指導主事

多くの学校では生活指導主任が中心になって行われているというふうに考えますが、学校によりましては、家庭との連携、地域との連携の中で行われている事例も

ございます。

◆増田裕一 委員

ちなみに、ネットいじめの実態につきましてどのように把握しておられるのか、また、どのくらいそういった実態があるのか。

◎済美教育センター統括指導主事

こちらのほうは、問題行動調査の中にネットによるいじめというような調査項目がございます。平成20年度は、小学校が1件、中学校が6件ということでしたが、平成21年度は、小学校0件、中学校が2件というふうな報告になっております。

◆増田裕一 委員

ネットというのは大人が大変見づらいような環境でございます。そういった見づらい環境の中で陰湿ないじめというものが行われないように、ぜひとも区としても積極的に取り組んでいただければと思います。

質問は以上です。